堀口大學全

6

堀口大學全集

堀口大學全集　6

昭和五十七年八月二十日印刷
昭和五十七年八月三十日發行

著　者　堀口大學
發行者　長谷川郁夫
發行所　小澤書店
東京都千代田區富士見二―五―十二
電話（東京）二六二―九二一八（代）
印刷　精興社
製本　大口製本
製函　日東工業
定價八五〇〇圓

© M. Horiguchi, 1982　　Printed in Japan

凡例

一、本全集は、堀口大學の全業績を、詩、短歌、譯詩、評論、隨想、飜譯作品（小說・戲曲・評論・隨想）等の各分野に亙って、原則として既刊の單行本を中心に編纂したものである。

＊

一、本卷（第6卷）は隨想とし、著者の單行本收錄のすべての隨想を採錄した。

一、本卷本文には既刊の單行隨想集六點（『季節と詩心』、『白い花束』、『詩と詩人』、『街に見た蝶』、『捨菜籠』、『秋黃昏』）を採用し、『水かがみ』收錄の隨想作品は新出のものだけを「拾遺」に採錄した。また未刊の隨想は、第7卷に採錄する。

一、單行本『詩と詩人』中に收錄されている「ランボオ三章」と「ボオドレエル三章」は、本來は「譯詩」の卷に收錄されるべきものであるが、單行本の全貌を正確に復元するために採錄した。

一、本卷本文は、著者の近代詩史に於ける役割を明確にする方針に則り、すべてそれぞれの單行本初版を底本として使用した。

一、本卷本文の漢字假名遣等は、原則として底本通りとしたが、新字舊假名遣使用の單行隨想集『街に見た蝶』は正字舊假名遣に改めた。

一、正字舊假名遣使用の本文は、次のような場合に限って訂正した。

1　誤字・誤植と判斷されたもの。

〔例〕幼小→幼少、大山木→泰山木、輔道→鋪道、收獲→收穫、厭倒→壓倒、等。

2　假名遣・ルビの誤り（但し、用ひる、及び音便に關する表記は底本通りとした）。

〔例〕間じゆう→間ぢゆう、見やう→見よう、だろう→だらう、植える→植ゑる、等。

3　脫字、及び送り假名不足で不自然なもの。

〔例〕メンデル（ス）ゾーン、動（か）す、書（か）れる、遣（は）す、大（き）さ、等。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

4　著者の訛用と判斷されたもの。

〔例〕おさらへ→おさらひ、お迎ひ→お迎へ、必じ→必ず、等。

5　前後が轉倒したもの。

〔例〕澁晦→晦澁、氣根→根氣、使驅→驅使、自各（てんで）→各自（てんで）、等。

6　俗字（但し、同字と見做される場合は雙方を竝用した）。

イ　正字に改めたもの。

〔例〕耻→恥、皷→鼓、濶→闊、戲→戯、凉→涼、舘→館、萠→萌、隙→隙、鎖→鎖、等。

ロ　雙方を竝用したもの。

〔例〕脣＝唇、糸＝絲、竝＝並、鋪＝舗、祕＝秘、回＝回、廻＝廻、蟲＝虫、蹈＝踏、双＝雙、等。

一、次のような場合は底本通りとした。

1　底本刊行當時の一般的慣用と見做されるもので、誤字誤植とは判斷出來ない用法。

〔例〕紀念、行衛、要之に、無暗、等。

2　著者獨自の用法。

〔例〕由因、布呂敷、すれずれ、等。

3　同語の異書體。

〔例〕何所＝何處、其所＝其處、亘＝亙、葦＝蘆、欲＝慾、砂＝沙、吃驚＝喫驚、じつと＝ぢつと、等。

4　踊り字。

一、外來語や外國の地名人名の片假名表記は、拗・促音を含め原則として底本通りとしたが、とりわけ同一本中で異表記の頻度の多いものに關しては、より一般的と思われる方の表記に統一した。

〔例〕フイルム＝フキルム→フィルム、フアン→ファン、エッフエル→エッフェル、等。

一、外國語の原綴は、明らかな誤植と思われるものを正すにとどめた。校異・校注に記載のない箇所は、すべて底本通りである。
一、疑問符・感嘆符の後は一字アキに統一した。
一、新字新假名遣の本文に於いて、固有名詞等で底本が一部正字を使用している箇所は底本通りとした。
〔例〕大學、九萬一、芥川龍之介、等。
一、本文中の詩の引用箇所は各底本が不統一のため左右一行アキ（引用後の本文は一字下から始まる）に統一した。また會話體の部分は、極めて不自然な箇所は訂正したが、他はすべて底本通りとした。
一、底本中に伏字〔×××…〕が用いられている箇所は、その内容が信頼できる資料によつて復元できる場合に限り、伏字の脇にルビ活字を〔　〕に入れてその内容をしるし、そうでない場合は伏字のままとした。
一、底本を訂正出來ない箇所、及び諸々の問題點は、本文の行の右側に〔註〕の記號を付し、校註に記した。
一、以上の處置により、本文と底本との間に異同を生じた場合は、すべて校異に摘記した。
一、卷末の解題には、すべての單行隨想集の書誌的な詳細を記した。

目次

隨想
季節と詩心　5
白い花束　187
詩と詩人　269
街に見た蝶　443
捨菜籠　459
秋黄昏　561

拾遺 595
水かがみ 597
作品細目 657
校異・校註 665
解題 679

堀口大學全集 6

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

隨想

季節と詩心

序

二十年ほどの間に書きためた隨筆感想の類を集めて、今度この一冊をまとめてみた。この種の著作は私としては初めての事である。

二十年といへばふた昔。隨分長い歳月だ。その間、私は、幾度か星を代へて、世界のあらゆる氣候に移り住んだ。あそこに三年、ここに五年。二十歳の夏、初めて海外の旅に出た青年の私は、今年四十四歳になつて、東京に住んでゐる。

見らるる通り、この書には何の統一もない。首尾を貫く何ものかを強ひて求めるとしたら、それは筆者の詩人としての心だけかも知れない。四半世紀に近い時の流れと、世界の隅々の異なる氣候とが、一人の詩人の心の鏡に映して行つた、これはそのてりかげり、はかない形見にほかならない。

一九三五年初夏

堀口大學

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com